

本時のねらい

- ・3年間の作品を振り返り、ポートフォリオとしてまとめることで自分と向き合う活動を行う。作品をどのように撮影するか、構図を考える力、ホームページが見やすいように写真や文字を構成する力を養う。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・Adobe Express の「ホームページ構築」を使いホームページを作成する。
→自分で作品の写真を取り、ホームページの素材データとして活用できる。
→制作が途中で、保存できており、スムーズに作成を再開できる。（素材があれば自宅でも作成可能）
→完成したホームページを Google クラスルーム で共有することで、相互鑑賞の場を簡単に設けることができる。

本時で育む主な情報活用能力

B-STEP 4, C-STEP 4

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Google クラスルーム
- ・スカイメニュー
- ・Adobe Express

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	○本時のめあてを確認する。 ⇒3年間の作品をホームページにまとめよう。	○授業支援アプリ(スカイメニュー)を活用することで生徒の画面が共有、確認できる。
展開 (25 分)	○自分の3年間の作品をまとめていく。 ・過去の作品を撮影し素材として活用する。 ・必要に応じて、Adobe Express 内の画像、インターネットの画像を使い、構成していく。 【写真1】【写真2】	○Adobe Express の「ホームページ構築」を使う。 ○それぞれの作品に対して①作品名②紹介文③3年生になって改めて観た感想④その他作品を紹介するために必要な文章を記載し、ホームページとしてのボリュームを出す。 ○写真の撮影に関しては、全体を写したり、細かい部分を写したりして、閲覧者に自分の作品の良さが伝わりやすいように工夫する。また、写真を撮る際は背景の色（色画用紙の活用も可）を考え撮影する。 ○インターネットの画像などを使う際はフリー素材であるかを確認させる。
まとめ (15 分)	○相互鑑賞をする。 ・Google クラスルーム に出席番号・名前・コピーした URL を投稿する。 ・ほかの生徒の作品を見て交流する。【写真3】	○Google クラスルーム を使うことで、各自のホームページのリンク先を全員と共有できるようになり、簡単に相互鑑賞ができる。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】ホームページを作成しているようす



【写真2】作品の写真を協力して撮影しているようす



【写真3】完成したホームページを見て、意見を伝えているようす

児童生徒の反応や変容

生徒たちは、自分の作品の良さを改めて見つけたり、自分自身の成長を実感したりすることができていた。また、ホームページに紹介するという形をとること、自分自身を発信することにもつながり、改めて自分自身に目を向けるきっかけにもなっていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

スカイメニューの Adobe Express では、Web 制作をはじめ、ポスター制作やアバター制作などのクリエイティブなコンテンツがたくさんある。それらは生徒の興味に沿ったものであり、自ら進んで表現の追究を行う姿が見受けられた。今回はデジタルのみで完結するだけでなく、過去の作品を見つめる時間や、また、それをどのように撮影するかなどアナログな活動を入れつつ行った。デジタルとアナログをバランスよく活用することが大切であると思う。